

チャイルド・バラッドと昔話

美濃部 京子

バラッドとは Kittredge の定義に従えば、「物語を語る歌、あるいは歌の形で語られた物語」であるが、昔話と同じく作者不詳のまま主として口承により民間に伝えられてきたものである。したがって、語りの特徴や扱っている主題なども共通する点が多い。しかし、もともとバラッドが詩の源泉としての文学的な興味の対象であったのに対し、昔話が神話や宗教との関連から民俗学・宗教学的な興味の対象であったこともあって、昔話とバラッドは切り離して考えられる傾向があった。

たとえば、共同体起源説に立ち、バラッドは民衆の踊りや、遊び、仕事などの歌の中から生まれてきたと考えていた Gummere でさえ「昔話はバラッドの起源とは何の関係もない。全く異なった道筋をたどり、全く異なった衝動から発生したものである」と述べている。

これに対し、Beatty は Gummere らはバラッドを同じ民衆の手による昔話や民衆劇と切り離して考えてきたと批判し、バラッドは民間伝承全体を視野に入れば、偶発的ともいえる非常にちっぽけなものに過ぎず、その民族の物語や伝承、劇、叙事詩と関連を持っていると述べている。

それでは、実際にバラッドと昔話に共通してみられる話型はどれほどあるのだろうか。Child の *The English and Scottish Popular Ballads* に収められている三〇五のバラッド（いわゆる

チャイルド・バラッド）と Arne と Thompson の *The Types of the Folktale* (以下 *Types* と略記する) の話型との対応関係について述べることにした。

Arne の *Types* の初版 *Verzeichnis der Märchentypen* が一九一〇年に発行されて以来、フィンランド学派の歴史地理的方法に基づく話型研究のモノグラフ・シリーズが FFC より数多く送り出される。その中で共に一九二三年に発行された Anderson の *Kaiser und Abt* と Mackensen の *Der singende Knochen* はそれぞれチャイルドの45番・King John and the Bishop¹⁾ 1番・The Two Sisters²⁾ の類話であり、チャイルド・バラッドの中にも昔話の話型を備えているものが存在することは早くから知られていた。

Child もそれぞれのバラッドのテクストの前に他の地域のバラッドや昔話、さらにサガ、ロマンス、レ・ファブリオ、文獻説話にいたるまで多くの類話を解説の形であげている。しかし Child のバラッド集が編纂されたのは *Types* が出るよりも前のことであつたのでそこに話型番号は記されていない。

一方、*Types* のほうには Child への言及があるが、一九六四年に出た改訂第2版でも、365、769、780、885、890 A、958、973 の7つの話型で言及しているだけで不十分なものしかなく、モノグラフ・シリーズで出た *Kaiser und Abt* に当たる922の項にやえ Child への言及はない。

このチャイルド・バラッドと昔話の話型の対応関係について扱ったものとしては、管見の及ぶところでは Morokoff Taylor³⁾ Shuldiner の論文がある。

Morokoff は Child が頭注で同話型の昔話に与えている「A」や「F F C 74」なものを *Types* の第2版⁴⁾ における Thompson の

The Motif-Index of the Folk-literature を参照するという方法で、チャイルド・バラッドと昔話の同話型を求めている。それによると、チャイルド・バラッドのうち Types に当てはまるものが17あり、そのうち完全に同話型であるといえるものが7、関連がみられるものが8、後ろの reject type に対応するものが2あると言っている。また、Types に対応する話型は見当たらないが、Child が昔話の類話に言及しているものとして33、昔話への言及はないが同話型と認められるものが2、疑わしい例が7、昔話よりむしろ伝説やロマンスなどとモチーフが共通するものを3あげている。この中には重複するものも含まれているので、Child が昔話の類話をあげているものと Types に同話型が見つかるものを合わせることにし、チャイルド・バラッド全体の1割強が同型の昔話を持つことになる。

以上のような結果から Morokoff は「バラッドの型の多くは普通の昔話の題材ではない。例えば、ロビンフッドやボーダーバラッド、歴史的バラッドがそうである。またロマンスのような文学形式から借用されたものや伝説に基づくものは民間伝承のモチーフは含んでいるが昔話と同話型になることはなさそうだ」と結論づけている。

続いて Taylor は Morokoff の後を受けて Morokoff が昔話の類話を持つとしたチャイルド・バラッドについてそれぞれに検討を加えている。また Morokoff が話型を特定できなかったものについて型番号を与えているものもある。その結果、昔話と同話型であると指摘されたバラッドのほとんどはモチーフや出来事が一致しているだけで、完全に同話型といえるものは2つしかないとしている。そして、昔話から派生したと考えられるバラッドは少

ないということ、中世ロマンスに関連するバラッドがかなり多いということ、バラッドと伝説の関係については判断が難しいということ、バラッドは笑話やノベレと共通する特徴が多いということとを述べている。

この様に Taylor はバラッドと昔話は様々つながりを持っているとしながらも、本質的には大いに異なるものであるという見方をしている。それは昔話が幾つかのエピソードからなり、始まりと中間部分、結末を持つという構造を持っているのに対し、バラッドはどちらかといえば小話や伝説と同じ様に基本的には一つの出来事から成るものであり、バラッドと完全に同話型といえるものは昔話以外のジャンルに限られることが多いと考えていたからである。

次に Stulmiller はバラッドと昔話は表面上は本質的に同種の物語を語っているように見えるが、それぞれの内容の扱いには大きな違いがあり、その違いは語られる物語と歌われる物語という違いだけではないと主張している。そしてさらに、イギリスのバラッドと昔話の内容を調べてみると、バラッドと昔話に真の意味での同じ物語はなく、その主題は相補分布の傾向があるとさえ述べている。

この様に、これらの研究ではバラッドと昔話の結び付きを求めながらも、実際に同話型といえるものは意外と数が少なく、それは両者の関心や表現の仕方に違いがあることに由来すると捕らえている。しかし、バラッドと昔話は扱う内容が違ふと言ってしまうのではなく、同じ内容を扱っているものに注目して比較研究を進めることによってこそ両者の影響関係や表現技法、形式の違いが明らかになるのではないだろうか。